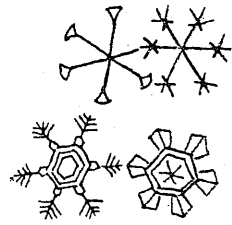


雪國の幼稚園（札幌市）



藤 幼稚園

もつと降り、もつと降り、づん、づん、づん積れ。

「先生、お早よう。」ひと晩の中に、音もなく降り積つた三・四尺の雪を、未だ極き終らない中に、第一の登園児に出会う。

「お早よう、まあ、早いね。こんなに積つていと思いませんでしたよ。余り静かに降るので……道がついていませんでしたよ。」

「お馬の引いていつた櫃の通つた跡に細い道がついていたよ。」

何処を歩いて来たのか、冬仕度にすつかり身を固めた姿が全身雪だらけになって、すつぱり被つた帽子に顔だけのぞかせて、はく息も冷たげに白色に揺れている。

「まあ、ゴム長の中でギッシリ雪がつまつて、中々脱げないじやありませんか。」

「手で引つればれば脱げるよ。先生！未だ誰れも来ていないの？僕、一等勝だね。」

雪と寒さを征服し、しかも第一着という優越感に、子供は満面に

笑を湛え、目は喜びに輝やくのであつた。「子供は風の子だ」漲る

成長力と旺盛な希望とは、困難ということを感じないらしい。それとも、お母様の着せて下さつた心の籠つた防寒着が、そうさせるのかしら。……大人は落葉の頃になると、「又冬が来ますね」と肩をひそめる。しかし初雪（大概十月の末か十一月の初め降る）が到来すると、もう子供達は、じつとしていられなくなる。それが保育中に現れるとさあ大変だ。雪やこんこ、あられやこんこ、降つてもくまだくやまぬ、と浮々、雀躍りして、スキーや櫃の話で、もちつきりです。「先生！もうすぐクリスマスが来るね。」

「嬉しいなあ。」
そうなると單元もすつから変えられて楽しい冬の数々の話し合
い、雪の観察、雪のお歌を次から次へ歌つて戸外の雪に見入りながら
果しない想像の国に思ひは高まる。どうして、こんなに、北国の子
供達は雪を楽しむのであろうか？私も子供達と共に冬が大好き。

それは一年中で一番楽しいクリスマスとお正月の数々の思い出が

つきまつわるから——。もう一つは冬籠り。家庭の愛がひしくと感じられる季節だからです。戸外は如何に寒さと吹雪が荒れ狂うとも、一家団欒ストーブを囲んで、家中が集り温かいふんいきに浸る時。それから又、もう一つは一種の成功感に似た、冬を征服出来た雄大な喜びが味われ秘められているからで、何となく魅力を感じさせられる季節なのである。此の意味で冬期に於けるカリキュラムのねらいは、自づと其処に落つく。天から下界へ降り来る数限りのない白い小さいお使達は、早くも子供達の心の扉を叩く。

「早くお支度して下さい。もうすぐイエズス様が御誕生になりますよ。」と。子供達は大好きなイエズス様がお休みになる寝心持のよい揺籠をお支度するために、小さな我儘もがまんし、ちよつとした善い行いを自分から進んで探す様になる。此の様に一月以上も掛つて心から準備されるクリスマスである。

お正月は冬休み中に行われるので、家庭の楽しみが主でその延長は一月の半ばまで持ち越される。カルタ、スゴロク、福笑い等、幼稚園では、それを又更に幼児向に工夫し自分達の手で作る事により家庭に於けるとは別に楽しみが新たにされる。古ハガキの上に出来た、自由画の自作童謡カルタ等も面白い。

又いろ／＼の思いやりが此の困難の中に培われます。北国特有の恐しい大地の下からゆすぶり返えされた様な吹雪は、大人でも正面に顔を上げて歩かれませんが、よく親御さん達は「どん／＼行らつしやい。とにかく幼稚園に着いたらもう安心ですから」

と云つて身体を温めて勇氣をつけてお出しになります。それにしても、子供のたど／＼しい足は、早くも熱を発散しつくされ、肌を

さ、れる様な冷たさ荒狂う雪まじりの強風には、小さい力も尽きて進退極まつて只泣声になるより術がない。吹雪の日、空気も氷る敵寒の朝には、お友達二、三人に手を引かれて泣きじやくりしながら、時には見知らぬ小母さんと学生さん達に勞わられながら登園する子供が三、四人はいつもあるのです。中には先生の顔を見るなり、張りつめた意気が急にくじけて、泣き出す子供も見えます。幼稚園の玄関には、先生や元氣のよい年長組の子供達が待ち迎えて、その子のお弁当や靴の始末をお手伝い。まづかに燃えたストーブの所に連れて行き、「泣虫さんですから、場所を空けて下さい。」とか、「偉いね泣いても歩いて来たのね。」とか「直ぐに手を火にあぶると痛くなるから先に揉んであげましょう。」とか、同情や励ましの声でそこ、から起る。その中に温かさが身に滲み、何時の間にか背と声を合せて、唱歌やしりとり遊びに解け込んでしまう。此の様な機会を見逃さずに、グループ活動や社会的好意をよく理解させる様に、種々な案が仕組まれます。

しかし、何と云つても、冬の保育を特色づけるものは雪の克服の元氣です。北国の陽は淡く、冬中晴天の日は数える位しかなくなる。殆んど半年雪の中に生活しているので、佝僂病が人口の二三をしめているのだから年中服用させる肝油ドロップスだけでは仲間間に合わず、せめて空氣浴だけでも心がけ、雪の降らない日は積極的に戸外に飛び出させる。ところが、又素晴らしい保育の道場で、神より無償で与えられた果しなく続く清らかに壮大な雪の原は、無限に豊富な教材の宝庫である。からだの發育も知識慾も旺盛な第三学期にはあつらえの好保育ができる。丁度。大規模な砂遊びとお粘

土遊びをひつくるめた様な仕観だ。画面になり、立体になり、工夫に、創造に、協力に、技巧に、運動に、全く理想的保育生活である。只日々留意していなければならぬことは、日中の一番気温の高い頃を見計ること。と、しょんぼり立すくんでいるような子供に活動を促すことです。深い雪にうづまるけれども、勇敢な先鋒隊が道を開らば、後はやさしい。小さい雪玉を作つてころがせば雪球はだん／＼重くなる。その雪球はとも大きい。それにさまざまの小さい彫刻家達は吹き出しそうな人間の形を彫り、動物、乗物、何んでも自由自在である。先生の大きなスコップが加勢をすると、乗つても崩れない大きな馬が出来。数人乗りの電車が出来る。本当にくぐれるようなトンネルも出来、櫓の汽車が汽笛をならして通り過ぎる。西に東に分かれて出来たお城からは雪玉合戦が始められるし小さい組の子供達は「雪人形倒し」に勢よく興ずる。時間のたつのも寒いことも全く忘れる。こうして北国の子供達は雪を友として、年々、強く伸び／＼と育つて行くのであります。

土地々々の自然に打ち克つ、というよりも利用することに心を盡されてゐる諸先生の明るさと努力とによつて、日本中の幼児がそれ／＼幸福によく保育せられてゐることは、有り難いことです。本文は北海道札幌市の藤学園幼稚園（園長レギーナー先生）に特にお願ひして寄稿していただきました。北海道その他雪国の幼稚園は皆此の通りでしょう。御苦労なことです。（記者）

（21頁から）

亦食後のうがいの微温湯も用意して、とお母さんに手をかけて貰えない子供の為に手落なく心遣をして上げよう。昼食後一番暖い時を見て外に出る。白一色の外界は子供にとつてどんなに魅力的な事か。冬の難物、風邪の予防には毎年の経験から自信を得て寒中でも余程の吹雪の日でない限り私達は身仕度宜しく子供達と共に外に出る。勿論気温と時間には充分注意の上で。急に外の冷たい空気に触れない様に中間温度の廊下でオーバーや手袋を自分の手で着けさせて時間をかけ外気との調和をとる事も小さいけれど大切なこと。私達の観察で外へ出る事を許されない子供の羨しそうな顔が窓硝子から覗いている。その日の当番の保母さんが屋内掛りで、不満らしい子を何とかひきつけて紙芝居やおま／＼ごと、団体遊びなどストーブを囲んでの楽しい一時を過すのも北国ならではの味でしょう。外は今興奮の絶頂。櫓、スキーそして雪の芸術……。とう／＼今年も厳しい冬がやつて来た。私達は北国人特有の底力をもつて胸ふくらませて冬將軍に挑むのだ。

（筆者 谷地頭保育副主任保母）